

# Nirvana ～組曲 仏陀～No.5

2012年12月15日 橘 木竜

火薬の煩惱が燃え立つ大地を  
癒やす雨風渡らせ  
祖国の策謀に王子が攻め入り  
顔で三度と止ませた

「成されたことが守り破る」  
四度目に滅ぼされ  
「王子も業は業である」と  
待たず枷縮ませて

この遙か遠く尊き命も  
永久決まりを解かれず  
あの長く通る難な悟りを  
また諭しに駆け出た

精舎の鐘の音希望と響かせ  
冒す魔の刃を治した  
「延ばせた寿命が…」言わせず気づかせ  
残る三月で開いた

捧げの肉は夜を誘い

双樹の下招かせて

「我らは…」弟子が声を上げて  
花の雨舞い降りた

「さあ遙か遠き無我の運命と

ただ因果を見つめて

皆絡み多き宇宙の一部で

ほら形が変わる」と

おお…段差に否まれ追われ

現代も闇は慈悲へとあつて

そう鑄型は増やされ押され  
今日も呪縛燃やされた

ああ遙か遠き理想の郷土よ  
永久真理は解かれず

逝く際になって仏陀も遺した

「来る前途も踏まえて」

この遙か遠き十二の問いかけ  
また初めに還され